

1 第3次戦略計画の経過

平成 23 年 3 月	第3次戦略計画策定（計画期間：平成 23 年度～令和 2 年度）
平成 27 年 7 月	一次改定（中間評価：戦術の追加、数値目標の見直し等）
平成 31 年 3 月	二次改定（中間評価：成果の追加、数値目標の見直し等）

2 成果と評価

戦略別	代表的な成果
戦略1 “ものづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○医薬品・医療機器合計生産金額は 10 年連続全国 1 位 ○47 の地域企業が新規参入、129 件の製品を事業化 ○「ふじのくに先端医療総合特区」における令和元年度の取組がライフイノベーション分野で1位となるなど、トップの評価を獲得 ○プロジェクト HOPE で約 8,000 症例のがん臨床データベースを構築 ○SRL・静岡がんセンター共同検査機構株式会社を平成 30 年 9 月に設立し、ゲノム医療を推進 ○超高齢社会に対応した健康長寿・自立支援プロジェクトを開始 ○地域企業が新型コロナに対応した製品を開発。抗原検査キットを開発した企業は、数百億円以上の販売規模に対応する生産体制を構築
戦略2 “ひとづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○静岡がんセンターが、累計 462 名の認定看護師を養成 ○総合特区制度を活用した F-met により累計 91 名を育成
戦略3 “まちづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 28 年 9 月に拠点施設ファルマバレーセンターを全部開所。静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とし、医療健康関連産業が集積する医療城下町を形成 ○令和元年 12 月山梨県と医療健康産業に関する連携協定を締結
戦略4 “世界展開の推進”	<ul style="list-style-type: none"> ○海外展示会の出展支援により 10 社以上の販売代理店を新規獲得 ○モンゴル、ベトナム、中国、ロシアなど、静岡がんセンターの病院システムの世界展開

- 医薬品・医療機器合計生産金額は、現在 10 年連続全国 1 位へと成長を遂げているほか、47 の地域企業の新規参入や 129 件の製品化など大きな成果を挙げ、数値指標においても概ね目標を達成している。
- ゲノム医療を推進する新会社が設立されたほか、時代の変化を捉え、介護福祉分野のニーズを取り込んだ、健康長寿・自立支援プロジェクトが開始され、人生 100 年時代を支えるモデルルームが令和 2 年度中に完成するなど、新たな取組が進んでいる。
- 内閣府が認定する総合特区について、令和元年度の取組が 1 位となるなど、国からも高い評価を受けている。静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とした産学官金の連携のもと、富士山麓の医療城下町が県域を越え拡大しつつある。
- 地域企業の販路の拡大など既に海外展開は進んでいるが、さらなる発展に向けた展開を考える段階に入っている。

3 委員からの提言（第4次戦略に向けて）

- 医療に特化した強力な製品の開発
⇒ゲノム医療・がん医療で有用な製品など
- 超高齢社会など、社会課題に対応する取組の推進
⇒生活支援ロボットの開発や、医療機器等の国産化の推進など
- 山梨県をはじめとした広域連携によるネットワークの強化
⇒プロジェクトの成果の全国展開と、県外企業等の技術シーズの取り込みなど
- 地域企業の更なる成長に向けた取組の充実
⇒ベッドサイドニーズに基づく製品開発の推進と、卸売業者・大手企業との連携による販売促進など